



大阪自治労連

第25回

定期大会

# 団結をつよめて 展望を切り開く

大阪自治労連は9月7日（金）8日（土）の2日間、シティプラザ大阪で第25回定期大会を開催しました。大会スローガンとして「労働組合の役割を探求し、行動する国民との具体的共同をすすめ、憲法がいきる地域と自治体をつくろう」が確認され、新たな前進をめざす運動方針が満場一致で決定されました。また、取り組みの先頭に立つ新役員も選出され、新委員長には大原真さんが選出されました。



新委員長に大原真さん（松原市職労）を選出

## 自治体労働者の誇りをかけて 憲法と民主主義を守り 発展させよう！

当面する秋の闘いでは、①職場からを全員参加型の賃金・人員闘争を確立する ②橋下・維新の会との闘いでは、大阪の位置と役割を自覚し、憲法と地方自治を守る闘いを進める ③職員基本条例等の具体的な実施を許さない闘いを進める ④防災まちづくり運動や原発ゼロをめざす運動を進める ⑤公務・公共サービスの拡充と公務制度改悪の阻止 ⑥独自目標を持ち秋の組織拡大月間を成功させる、という決意を固めあいました。



## 原水禁世界大会に参加

東大阪市職労青年部

部長 すぎもと 杉本 梓さん (保育士)

副部長 もりもと 森本 志歩さん (保育士)



杉本さん(左)と森本さん

# 貴重な体験

# 青年部の仲間を広げたい

2年前青年部の常任幹事だった杉本さんは、ニューヨークに行けるという魅力でNPT再検討会議に仲間の保育士4人で参加。これをきっかけに、東大阪で毎年行われていた「戦争展」に青年部としてNPTの経験をパネルにして出展。青年部として平和をテーマにした取り組みを始めることになりました。

そして今年、以前から行ってみなかった「原水禁世界大会」に森本さんを誘って参加しました。

事実をどう伝えるのか  
問われている

大会に参加しての杉本さんの一番の印象は、「私たちよりも若い人たちがたくさん、平和への思いを持って自分から参加している」こと。青年分科会でのグループワークでは、被爆者を訪問して戦争体験を聞くという貴重な体験も。「私たちの思いを、若い人たちが一生けん命聞いてくれることがうれしい」と語ってくれた被爆者の言葉が心に深く響き、「私たちだけではもったいない。周りの仲間にもぜひ経験してもらいたい」と思うようになりました。「太平洋戦争では「被害者」としての見方が強調されがちですが、日本の「加害者」責任も忘れてはならないし、後世にどう伝えるのか問われていることを知りました」という森本さん。「学校でも日本が侵略した歴史を学んでないし、今のメディアでも報道される機会が少ない。「子ども・子育て新システム」でも、私たちが学習会で聞いたこととメディアでの報道は全く違います。メディアの報道しか聞いていない人と、私たちが思いがズレができてしまいます。伝え方でこれほど考え方に違いがでてくるということに気づきました」と語ります。



戦争展に出展した青年部手作りの戦跡めぐりのパネル

組合員に  
支えられているから

「青年部の活動ではいろいろな企画をしますが、集まる仲間は思うように増えません。がっかりすることもありますが、今回はみんなが千羽鶴を快く折ってくれました。お互いの思いはいつも一緒にあり、私たち役員も支えられているのだから、組合員に頼っていると思うようになりました」という杉本さん。これからは青年部として「平和」を意識して、日常の生活の中に継続した取り組みを考えている2人です。